



ロッククライミングを愉しむ筆者

巻頭インタビュー



合同会社森のたね
代表社員

井戸 直樹さん

Interview

森は単体の自然ではなく、 山や川や人の暮らし今まで全て繋がっている。



のこぎりでの伐採体験の様子

領域は広いですが、森の自然といふのは山があり、川があり、そして海に繋がっているため、森づくり活動はさまざまな取り組みが必要となります。森なら森、山なら山、

は自然環境が関わるため、林業や里山整備などの森林保全活動にはじまり、狩猟を含めた野生動物対策、森林資源の利活用、自然体験や森林環境教育などの人づくり、漁業など、多岐にわたります。

昔から山や川に入つて遊んでいたことが多く、海と山と川、自然は全て繋がっていると自然と戯れながら感じていました。私たちの活動は主に森づくり活動が中心となります。森づくりには、多様な自然環境が関わるため、林業や里山整備などの森林保全活動にはじまり、狩猟を含めた野生動物対策、森林資源の利活用、自然体験や森林環境教育などの人づくり、漁業など、多岐にわたります。

二面性のある自然

川なら川と、それぞれ単体で考えることが多いかもしれませんのが、健全な森が清らかな水をつくり、その水が湧き出して川となり、川の水が海へ流れ、全てが連動しています。そしてそこに私達人間の暮らしがあり、自然への畏れも

忘れてはいけません。自然の魅力は私達人間に恵みを与えるとともに天候の急激な変化や天災などで牙をむくこともあります。常に表裏一体なのです。

一次産業のリアルを 伝える難しさ

森や山のことを知れば知るほど、そこには多くの課題が見つかります。そして直接その自然と関わることとなる一次産業に従事する人が年々減少しています。私たちは、

環境教育や自然体験活動により、次産業の魅力を伝えることと、そして自ら、林業や漁業や狩猟に従事して、そのリアルを学ぶことを大

まな要因が絡み合っています。まずは、その環境を正しく理解し、資源の状態を捉え、バランスを上手に保つことが必要になるのではないか

と思います。生態系は、生産→消費↓分解という循環の流れですが、分解の役割に課題が多く存在します。この課題を解決できたらと考えていますが、なかなか明確な答えは出ません。第一次産業の魅力と課題を伝えることは本当に難しいことだと痛感しています。

自然とかかわることは文化 の継承にも繋がっている

政策による自然への影響等さまざま

県内外に向けて、森林環境教育や自然体験を行う機会が多くあります。県内の大学において、数年にわたり自然体験実習を担当し



駿河湾から見る富士山

ていますが、その実習で大学生に鹿の解体や鹿皮を鞣す工程の体験を提供しています。大学生の反応は、血を見る、においがする、感触がグロテスク等さまざまな感想を持ったようです。リアルな自然に触れることに前向きな学生も多い方で、「こんなリアルなものではなく、自然と距離のある人工のも

のでいいじゃないか。」という学生もいました。それぞれが自分の認識を深めてくれたように思います。が、植樹や野生動物を保護することに関する認識は高い反面、木を伐採することや野生動物を殺すこと、自然の恵みを暮らしに活かしていく認識や理解は低い部分もあるようです。私は、恩恵を受



富士山麓に眠る洞窟を案内する様子

富士山麓の森を元気にしたい

私が取り組んでいる森林保全活動や環境教育にもまだやりたいことが沢山あります。現在ス

けることや保護することを含めた自然との関わりを常に持つてない、この先困ったことになると確信しています。鹿革が良い例ですが、鹿を狩らなくなると、鹿の捕り方を知る者がいなくなり、ひいては鹿革を鞣すやり方さえ後世に遺すことができなくなります。私たちの祖先が遺してくれた大切な文化が一つ途絶えることになってしまいます。

達の拠点である富士宮だけでなく、静岡県内、さらには東京都内まで、いろいろな経験や考え方を持つ方が連携して知恵を出し合うことが、今後の活動をさらに活性化させる要素だと考えています。

また、富士山麓の森づくりは、私達の拠点である富士宮だけでなく、静岡県内、さらには東京都内まで、いろいろな経験や考え方を持つ方が連携して知恵を出し合うことが、今後の活動をさらに活性化させる要素だと考えています。まだまだ小さい活動ではありますが、多くの人と一緒に森の中で過ごす機会を一緒にしたいと思います。



積極的に情報発信を始めている。
(森のたねイベントチラシと案内冊子)

お知らせ

森のたねインスタグラムを始めました。

私達の日々の活動の様子やイベント情報をご覧いただけます。現在、会社ホームページを準備中です。企業や団体、学校や個人の方からさまざまなお問い合わせをいただいておりますので、今後ホームページが出来ましたら皆様にご案内申し上げます。

合同会社森のたね morinotane@gmail.com



井戸直樹 氏 合同会社森のたね 代表社員

環境リサイクルプラントメーカー勤務後、自然ガイドを経て、2010年から森のたねの活動を開始。2017年、静岡県森づくり大賞を受賞。現在、富士地域森林県民円卓会議運営委員、全日本鹿協会理事、富士宮獣友会分会長に就任。自然ガイドとして森の愉しさや課題等を伝えていたが、自分が経験しない本当の意味で説明ができないと農林漁業に従事して経験と知識を積み現在に至る。

